

## 第 65 回海外日系人大会宣言

### 日系レガシーを礎に、連携して多文化共生社会の実現と維持に取り組みます

2025 年 9 月 19 日

私たち、第 65 回海外日系人大会（2025 年 9 月 17 日～19 日 東京で開催）に世界各地から参集した日系人は、「混迷と不安が深まる世界とニッケイ社会～新たなつながりを求めて」を総合テーマとして討議し、以下の 5 項目からなる決議を本大会の成果として宣言します。

#### 1【日系人の歴史を踏まえ、連携して多文化共生社会の実現と維持に尽力します】

世界各地に移住した日本人とその子孫は、長い歴史の中で人種差別、第 2 次世界大戦中の強制収容、強制退去など様々な苦難に遭遇しましたが、日本人・日系人の徳性とされる誠実、勤勉、我慢強さなどをもってこれを乗り越え、居住国や地域の発展に大きく貢献してきました。しかし、第 2 次世界大戦の戦後 80 年に当たる今、世界では、戦火がやまず、偏見や偽情報が SNS で拡散し、戦争の教訓を忘れたかのように、異なる存在を排除する動きや社会の分断が深まっています。多くの移住者が、私たちの祖先が体験したような差別や偏見にさらされています。

私たちはそのような状況を懸念するからこそ、多様な文化的背景や価値観を尊重し、対話による相互理解と包摂を基盤とする社会の実現とその維持に努めます。また、今次大会にあわせ、日本に在留する学生を中心とした若い日系人 60 人が最近の内外の状況やその影響にどう対処すべきかを議論し、その内容を大会に報告しました。特に、日本で偽情報や誤った情報により在住外国人への偏見が広がる現状を憂慮し、日本で学ぶ若い日系人がより正確な情報を発信したいと訴えました。このように次世代の日系人が海外日系人大会に関心を寄せ、自分たちの意見を報告したことは連携を強める動きであり、評価します。

#### 2【日系女性の社会文化発展への貢献を誇りとし、また、在日日系人の次世代の活躍を期待します】

今次大会のパネルディスカッションでは日頃取り上げられることが少ない「日系女性の力」と「若い在日日系人の活躍」が取り上げられました。

日系社会や日系人が住む地域社会の発展に、世代を超えて日系女性たちが大きな役割を果たしてきました。パネルディスカッションでも日本文化の発信、地域社会の発展など幅広い分野で築かれた女性の功績が顕著であることが浮き彫りになりました。私たちはその貢献の大きさを誇りに思うと同時に感謝します。また、日本で育った次世代の在日日系人から、二つの文化的背景を持つことを強みとして活躍する人たちが増えているとの報告がありました。日本の習慣を理解し、日本語を含む複数の言語を使いこなし、日本社会を元気づける次世代の日系人に期待します。

### **3【日本を体験する日系人を増やすため、日系人の若者を日本に招く事業を拡充するよう求めます】**

日本政府や地方自治体、各団体による様々な日本招へいプログラムによって、多くの日系人が日本で学び、その経験や知識を自国に持ち帰り、ニッケイ社会や地域社会の発展のために貢献してきました。日本が遠い存在になりがちな若い日系人が、日本の生活や文化を直接、体験すれば、日本への親近感をより密接に感じることができるでしょう。このため、私たちは前述の招へい事業を評価するとともに、対象を広げ、内容を充実させるよう求めます。招へいプログラムに参加する日系人の若者がさらに増え、日本体験を積み重ねて、在住国と日本との架け橋の役割を果たすよう期待します。なお、日本・ブラジル間ではワーキングホリデー制度の導入が検討されており、私たちはこれを歓迎します。

### **4【日本の外国人政策について、排外主義に陥らず、事実に基づいた議論を期待します】**

最近、日本でも「外国人政策」をめぐる議論が高まってきています。正面からこの問題について議論し取り組むにあたって、誤った情報や感情論に左右されることなく、事実に基づき「多文化共生社会を目指す」ものであることを期待します。また、互いに尊敬できる多文化共生施策を作るうえで、受け入れる側の日本人とともに当事者である日系人や外国人の意見も反映することが重要です。

### **5【4世ビザの抜本的改正と国籍法改正を求めます】**

「4世ビザ」の申請件数は依然として低調です。受け入れサポーター制度、年齢制限、家族不帯同、定住化容認要件（滞日年数、年齢制限、日本語レベル）についての要件の大幅改正や撤廃を検討するよう引き続き日本政府に求めます。また、共生社会を実現し、日本人と日系人が世界で活躍できるように、在住国と日本の両方の国籍を維持できるような国籍法の改正は欠かせません。国籍喪失規定と国籍選択制度の廃止を検討するよう引き続き日本政府に求めます。